令和３年度　授業改善推進プラン

# 東久留米市立南中学校　第３学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析<br>更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値<br>評価（◎、○、●） |
|---|---|---|---|
| 国語 | ・語彙力が不足していたり、同音異義語などの使い分けが不十分な生徒がいる。 | ・毎時間宿題を出し、漢字練習や語句の確認の定着を目指す。 | ○ 毎時間の確認と、小テストの実施。正答率７５％を目指す。 |
| | ・求められている題目に適した文章を書くのが苦手な生徒がいる。 | ・構成や文の組み立てに注意し、丁寧な推敲を行うよう指導する。 | ○ ６００字の作文を誤字なく１５分程度で書けるようにする。長文になっても誤字５％以下を目指す。 |
| 社会 | ・権利などに関わる用語や条文を区別、分類することに対して苦手な生徒がいる。 | ・具体的な事例を取り上げた授業展開や用語や条文を模式図に記入させる活動を多く取り入れる。 | ○ ８０％以上の生徒がワークシートなどの作業内容ができるようにする。ノートを活用し、確認する。 |
| | ・歴史的事象を時代区分や年代ごとに整理する作業に対して苦手な生徒がいる。 | ・単元ごとに前単元の内容を踏まえて比較して、まとめる活動を取り入れる。 | ○ ８０％以上の生徒がワークシートなどの作業内容ができるようにする。ノートを活用し、確認する。 |
| 数学 | ・基礎的基本的な計算力に個人差が見られる。 | ・「解く力」を週１回の実施を行い、基礎基本的な計算演習を取り入れる。 | ◎ 単元ごとの小テストを実施し、基礎的基本的な計算の正答率を７５％以上を目指す。 |
| | ・数学的に表現することに苦手意識のある生徒が見られる。 | ・授業や課題では、振り返りシートやレポート課題などで数学的に表現する機会を設けていく。 | ◎ ８５％以上の生徒が、単元ごとの振り返りシートでは数学的に表現できるようにする。 |
| 理科 | ・自然の事物、現象について科学的に考察し、自分の考えを表現することが苦手な生徒がいる。 | ・口頭での発表だけでなく、タブレット端末やワークシートを活用し、様々な方法で自分の考えを表現する場を設ける。 | ◎ ８０％以上の生徒が、実験レポートで自分の考えを考察として筋道立ててかけるようにする。 |
| | | | |
| 音楽 | ・・表現領域について、工夫したいことを実際に歌声や楽器の音にのせられない生徒がいる。 | ・歌唱においては練習方法を多く提示し、個々の課題を改善できるよう工夫する。視聴覚機器を使い、客観的に課題を捉えられるようにする。 | ○ 学習プリントの自己評価について、５０％以上の生徒が工夫したいことを声や音にのせて演奏できたと答えられるようにする。 |
| | ・生活や社会と音楽の関わりについて考える場面が少ない。 | ・他教科の学びなどと関連付けて、生活や社会と音楽の関わりについて考える場面を計画的に設定する。 | ○ 生活や社会との関わりについて、５０％以上の生徒が音楽的な視点から述べられるようにする。 |
| 美術 | ・表現活動で、制作のための資料を用意する力に個人差が大きい。 | ・タブレット端末を活用し、資料をたくさん用いて制作できるようにする。 | ◎ ８０％以上の生徒が、２つ以上の資料を組み合わせながら制作に取り組めるようにする。 |
| | | | |
| 保健体 | ・自分の課題を捉えることはできるが、どう取り組めば改善できるかを考えることが不十分な生徒が見られる。 | ・タブレット端末を活用し、練習方法や資料を用いて活動する機会をつくる。 | ◎ 学習カードの自己評価において、８０％以上の生徒が改善点を記入できるようにする。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 体育 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 技術 | ・プログラミングにおいて命令の役割の理解、動作の把握が苦手な生徒が多い。 | ・簡単なものから取り組み、求めるプログラミングをつくる感覚をつかめるようにする。 | ○ ８０％以上の生徒が、正常に動作するプログラミングをつくれるようにする。 |
| | | | |
| 家庭 | ・積極的に発言をする生徒は多く、意欲的に実習にも臨んでいる。持ち物や提出物について、生活指導する必要のある生徒がいる。 | ・声掛けや助言を心がけ、師範を行うことでやり方を学ばせ、作業に取りかかりやすくする。 | ○ 作品未完成の生徒を出さないようにし、全員が達成感をもてるようにすることを目指す。 |
| | | | |
| 外国語 | ・自分の考えを表現する事に前向きな生徒が多いが文法的なミスや語彙使用での正確さが課題である。 | ・アウトプット活動時に、友達同士で指摘をする時間を設けて自分の間違いに気付けるよう促す。 | ○ 単元ごとにパフォーマンステストを行い、８０％以上の生徒が正確な英語で表現できるようにする。 |
| | ・読む、聞く活動に苦手意識がある生徒が多く、要点や概要を捉えることに不十分な生徒が見られる。 | ・グラフや表にまとめたり、要約活動を通したりして、要点や概要を捉える活動を取り入れる。 | ○ ワークシートの作業を通して８０％以上の生徒が適切に質問に答えたりまとめたりすることができる。 |
| 特別の教科　道徳 | ・授業中の発問に対して、他者との話し合いを通して自分の考えを深めていくことが苦手な生徒がいる。 | ・ＩＣＴ教材や生徒の状況に合わせた教材など通して、道徳的価値の葛藤をさせる機会を多く設ける。 | ○ ワークシートや授業での発言で評価する。５０％以上の生徒が相手の意見を踏まえた自分の考えを表現できる。 |
| | | | |
| 総合的な学習の時間 | ・一部の生徒は、グループ内の話し合いに消極的な部分がある。 | ・総合的な学習の時間という中で、何のために行うのか目的意識をもたせる。 | ○ 全員の生徒がまとめや発表ができる活動の場面を学期に１回取り入れる。 |
| | | | |